



2013年12月発行  
船橋市学童保育連絡協議会

公式サイト <http://homepage2.nifty.com/fghrk/>  
メール [fghrk\\_info@freeml.com](mailto:fghrk_info@freeml.com)



## ◆ 条例化まであと半年！

「子ども子育て関連法」にもとづいて、放課後ルーム（学童保育）の基準を来年の6月議会で条例化することになっています。

ただ今の内容をそのまま条例化するのではなく、すこしでも良くなるように、利用者である私たちの意見を伝えていきましょう。

### ●国の示す基準がたたき台となります。次のような検討がされています。

<従わなければならない内容(最低基準という意味です)>

#### ① 指導員の資格

国の機関で検討されているのは、「あそびを指導員する者」という方向です。  
この内容は現在の船橋市指導員の資格と同じです。

#### ② 指導員の配置基準

40人を単位とする「クラス」をつくり、「クラス」単位に複数指導員を配置という方向で検討されています。

ただし、同じ部屋であっても複数のクラスをつくるは可能としています。これでは大規模運営の実態は変わらないこととなります。

少なくとも部屋に間仕切りを入れるなど、空間を分けることが必要です。

<参考にする内容>

施設の広さ、保護者負担額などその他の項目は、市が独自に決めることとなります。

これまで、開設時間の延長、指導員の資質向上、ルームの増設・分割、指導員の待遇改善などの要望が出されてきました。

**各父母会でどんな要望をするのか、急いで話し合ってください。**

### 「放課後子ども教室」は、「放課後ルーム」とどこが違うの？

市は「放課後子ども教室」の導入を検討しています。これは文科省の事業で、学校のすべての子どもを対象として放課後のあそびを提供するものです。児童ホームの様子でわかるように入退室のチェックは子ども自身がするなど、留守家庭児童(昼間親のいない家庭の児童)のケアとしては不安が残ります。放課後のあそびの場としては歓迎すべきことですが、両事業を一緒にした自治体では混乱が起きています。

## ◆ 行ってきました！ 晴れの国おかやまの全国研

今年の全国研の会場は千葉から遠く離れた岡山市、しかし山陽新幹線の岡山駅から徒歩圏内という、恵まれたロケーションです。新幹線を使った場合は、去年の埼玉の全国研よりも移動は楽だったのではないのでしょうか。新幹線の乗り換えロビーにあった電光掲示板に「歓迎 全国学童保育研究集会」のテロップ。JR 西日本も含めた地元全体での歓迎ムードを感じました。あいにくの小雨気味でしたが、第 1 日目の全体会の参加者だけで 4,436 人！ 3 年前の千葉の全国研を簡単に超えてしまいました。熱気あふれる子どもたちのパフォーマンスで開会。その後、基調報告・特別報告・記念講演と続きます。

特別報告のトップバッターは、地元岡山で 20 年のキャリアをもつベテランの指導員の藤田さん。人員不足で



児童への目が行き届かなかった 5 年目のとき、棒を振り回し暴れるトモキくんに言われた「指導員を増やせ」の言葉。結局トモキくんを救うことができず退所に追い込んでしまいます。藤田さんが組合結成に動きかけにもなった悔恨のエピソードでした。でも藤田さんはここで指導員を辞めたりせず、多くのことを反省して成長されました。

薬を飲み忘れて遊びに行ってしまった発達支援児のカツちゃん。あとから薬を飲ませようとしても怒って同僚指導員を殴ります。藤田さんは落ち着いてカツちゃんに寄り添います。「お水とお茶、どっちがええ？」「じゃ、お茶。」薬を飲みなさいと説得するのではなく、どう飲むか本人に選ばせたことで、本人の自尊心も満たしたうえで導いた事例でした。

友達や指導員をすぐ殴る 3 年のタロウくんは、「フジ、助けてくれ、俺のイライラ、とってくれ！」とストレートな SOS を藤田さんにだけはぶつけます。タロウくんがある日「あいつ（友達）を殴ってきてええか？」と藤田さんに聞きに来ました。藤田さんは「偉いなあ。殴る前に聞きに来てくれたんや。成長したなあ！」と褒めたのでした。タロウくんは後日、中学生になってからこのことを振り返って藤田さんに言いました。「にこにこクラブってすげえ。フジってすげえ、ってその時思うたんよ」

藤田さんの報告のほか、被災 3 県からそれぞれ指導員さんの報告がありました。

記念講演は、心理カウンセラーとして活躍する富田富士也さんが、話術とユーモアで「甘えること」の難しさとかつさを説かれ、会場は大きな感動につつまれ 1 日目を終えました。

(会長 伏谷)

